

肝内胆管癌に対する重粒子線治療の概要

プロトコール番号:1802-2

治療プロトコール	肝内胆管癌に対する重粒子線治療 1802-2
対象	切除不能または再発性肝内胆管癌
治療方法	1日1回 週4回照射法 1) 末梢型, 総線量 48.0 Gy(RBE)/2回, 総線量 60.0 Gy(RBE)/4回 2) 肝門部型, 総線量 52.8-60.0 Gy(RBE)/12回 3) 消化管近接型, 総線量 60.0-76.0 Gy(RBE)/12-20回
適格条件	1. 肝 dynamic CT または肝 dynamic MRI にて臨床的に、または組織学的に診断された肝内胆管癌 2. 肝 dynamic CT または肝 dynamic MRI で測定可能な病変があり、腫瘍の最大径が 12cm 未満または治療体積の最大径が 15cm 未満 3. 単発または複数であっても同一照射野内で治療可能である(ただし治療体積の最大径が 15cm 未満) 4. T1-4N0-1M0 5. Child-Pugh score が 9 点以下 (grade A, B) ただし重粒子線治療により肝不全を来すリスクが高い場合には、カンサーボードにより適応を判断する 6. Performance Status(ECOG 基準) 0-2 7. 本人に病名・病態の告知がなされており、患者本人から文書による同意が得られている 8. キンサーボードで、重粒子線治療の適応ありと判断されている
不適格条件	1. 臨床的標的体積に消化管が接する 2. 当該照射部位への放射線治療の既往がある 3. 臨床症状のある間質性肺炎又は肺線維症を合併している 4. 照射領域に開放創や活動性で難治性の感染、炎症疾患を有する 5. 他臓器に活動性の重複癌を有する ただし、根治治療により治癒と判断された場合、もしくは治癒が見込める場合を除く(もう一方の悪性腫瘍の治療先行を推奨) 6. 門脈本幹、総肝管に及ぶ腫瘍塞栓を有する 7. 治療抵抗性の腹水がある 8. 高度に発達した肝外門脈側副血行路を有する門脈圧亢進症がある 9. 治療を要するか、治療困難な胃または食道静脈瘤を有する 10. 妊娠または妊娠している可能性がある。 11. 医学的、心理学的または他の要因により不適格と判断された場合
治療の種類	先進医療